

8-4-35 マネジメントシステム委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の運営方針

「システム改善」「環境配慮」「PFI」「PM」「アセットマネジメント（以下、「AM」と記す。）」の5つの専門委員会により、広くマネジメントの実効性向上と普及拡大を目指し、管理、業務の両面から活動を進めた。#

委員会の活動目的は次の5点に関連する調査・研究および広報とした。

- ① マネジメントシステムの実効性向上
- ② 環境配慮の推進
- ③ PFI/PPP 市場拡大・啓発活動の取り組み
- ④ CM/PM 関連技術の向上・周知とマネジメント領域の拡大への取り組み
- ⑤ AM の社会実装への取り組み

(2) 委員会の開催

委員会は11回開催した。

(3) 白書、要望と提案など

「建設コンサルタント白書」で複数パートを執筆した。また、「要望と提案」での「企業経営の安定と処遇改善・新たな事業推進形態に向けての環境整備」、「60周年記念誌」での「マネジメント領域の拡大」の原稿を作成した。また、長期ビジョン2025策定委員会へ包括委託、PFI、CM等の取組状況等の資料を提供した。

(4) マネジメントセミナーの開催

集合方式とオンラインを併用したセミナーを開催した。

- a) 開催日：令和5年10月4日（水）
 - b) 配信場所：赤坂インターシティコンファレンス
 - c) 集合会場からの高品位なライブ配信など
- セミナー実施内容は、「建設コンサルタントとマネジメント」「PPP/PFIの政策動向と事例紹介」「CM方式の更なる普及に向けて」「サステナビリティ経営の実践に向けて」「マネジメントシステムの効果的運用に向けて」及び「AMの社会実装に向けて」の全6講で、会員参加は325社993名、発注者は7名と合計1,000名の

参加をいただいた。アンケート調査結果によれば、各セッションとも高い評価を得て、「非常に役立つ」「役に立つ」の回答が96～99%、また今後の継続開催の要望は100%であった。

(5) 外部情報の収集及び発信など

外部情報の収集は、システム改善がQMS運用に関して、環境配慮がサステナビリティ経営に関して協会会員企業へヒアリング調査を実施、AM専門委員会が地方公共団体に対してAMの社会実装に関してヒアリングを実施した。また、PMが各支部とCM等の認識について、PFIが異業種（ゼネコン等）と事業参画のポイント等についてそれぞれ意見交換を実施した。

情報発信としては、システム改善が「システム改善専門委員会セミナー発表事例集」、環境配慮が「建設コンサルタントのサステナビリティ経営の実践と事例」、AM専門委員会が「建設コンサルタントのAMに関する認識（令和4年度調査結果）」を協会ホームページへ掲載した。

(6) 各専門委員会でのセミナー、勉強会の実施

12月に「建設マネジメント（PM）」、1月に「都市交通まちづくりとSDGsに関する基本的な考え方や地域実装（環境配慮）」、3月に「地域資源を活かした民間投資を伴うPPP/PFI事業の拡大に向けて（PFI）」と題するセミナー等を開催した。

(7) 内閣府PFI/PPP専門家派遣

PFI専門委員会では、内閣府専門家派遣に17件（昨年度24件）に対応した。

(8) その他の活動

未来塾対応WGの下で事業促進PPPワーキングを国と開催した。また、インフラメンテナンス国民会議、地域インフラ群再生戦略マネジメント実施手法検討会、土木学会ISO対応特別委員会に参加する他、JAAMの活動にも協力している。

2. 次年度の活動について

引き続き、それぞれの専門委員会活動を通して会員企業へのマネジメントシステム等の最新情報の提供や事業の啓発及び拡大に努める。

（マネジメントシステム委員会委員長 畔柳 耕一）